

地域に合わせた「森づくり」の推進

—インドネシア植林活動「ヤマハの森」

ヤマハ(株) 総務部 CSR 推進室

室長 中村勝也 / 企画担当課長 阿部裕康

ヤマハは今年で創業 125 周年を迎える。オルガン修理から事業はスタートしたが、その後ピアノなどの楽器製造に乗り出し、さらにオーディオや家具にも展開してきた。こうした製品の大半は木製であり、当社は多くの木を使用し続けてきたことにもなる。そういう意味でも、植林を通じて地球にやさしい活動をしていこうと考えた。国内外で実施している植林活動の中から、インドネシアでの取り組みを紹介したい。

荒廃した森の復活を目指す

当社の植林活動は木材を原料として利用する目的ではなく、森林や生物多様性の保護という観点から、その地域の生態系に合わせた「森づくり（森の修復）」に取り組んでいる。



苗木が 2 年でここまで成長（樹種によって異なる）

苗作りをする子どもたち



インドネシアは世界の生物種の宝庫でありながら、近年その豊かな生物多様性が急速に失われている。一方、インドネシアは当社の重要な楽器の生産拠点国であり、グループとして 1 万 1000 人の従業員がいる。そこで 2005 年、当社同様多くの拠点を有しているヤマハ発動機と協働し、(公財)オイスカの協力を得ながら、インドネシア植林活動「ヤマハの森」第 1 期活動を開始した。場所は西ジャワ州スカブミ県、乱伐により荒廃した県有地を実施することにした。2009 年までの第 1 期 5 年間では、面積 127ha、植栽本数 11 万 5000 本の植林活動を地域住民の方々と一緒に実施してきた。

第 2 期は 2010 年 11 月から、チレメイ山国立公園の中を植林地域としてスタート。JICA をパートナーとし、地元のクニンガン大学林学部の協力も得て、2015 年までの 5 年間で 50ha、4 万 4000 本の植林を目指して現在取り組み中である。

環境の大切さを学んでもらう

第 2 期植林地域は、焼き畑農業の飛び火で山火



地元の子どもたち、ナショナルスタッフと本社スタッフ



パトロール用の監視小屋も建設

事となり荒廃してしまった地域である。国立公園の中だが、そこには居住し畑を作っている人もおり、農産物など生活に直接役立つものを植えたという人も非常に多い。そういった生活基盤を持っている人々に、いかに木を植え、森を育てることが大切であり、防災や雇用の面でも住民生活に役立つことであるかを理解してもらうことも重要である。そのため、子どもたちに環境の大切さを学んでもらい、同時に子どもたちを通じて大人にも自然の大切さを認識していただくようにしている。今回は林学部の大学生に協力してもらっていることもあり、学生たちは植林の大切さを教えながら、地域の子どもたちと一緒に植林活動を進めてくれている。

参加したナショナルスタッフからも、「この活動は私たちの子孫のために、自然や生態系を保全する一つの努力だと思います」などの感想が寄せられ、自然保護の大切さをあらためて感じてくれている。

林学部の学生に地域にもともとあった樹種を調査してもらい、森を取り返すために必要な樹種を植林する。1、2年目は調査、育苗が中心となるため、実際の植林は2011年12月からとなった。植林時期は雨季の前が最適と言われているが、植

林作業のキックオフは雨期に入って間もない2011年12月2日、日本からも現地に行きセレモニーに参加した。

インドネシア「ヤマハの森」第2期植林も3年目に入っている。植林活動の実スタートから4カ月が経過した現在、



セレモニーでは県知事もあいさつ



植林の大切さを学ぶ

1万2000本、12.5haまで終了し、ほぼ予定通り進捗している。

年々増加する継続的参加者

現地に4回行き、地元の人たちと一緒に植林をして感じることは、インドネシアのために日本人たちが応援してくれることに感謝する地元の人たちがだんだん増えていることである。植林の大切さを分かってくれた人は毎年継続的に参加してくれるようになり、私たちがやりがいを感じる。

もう1つは、子どもたちが非常に元気でみんな生き生きしていることである。表情も豊かで明るく、とてもアクティブだ。私たちが行くと明るく対応してくれ、接する私たちもうれしくなってくる。そういう光景を見ていると、インドネシアの将来にも期待ができると強く感じる。

ヤマハグループのCSRスローガンは「感動を・ともに・創る」をめざして”。その活動方針の1つとして「環境保護、生物多様性維持の意義を理解し、環境負荷の軽減、適正な木材活用と森林保護活動などを推進し、健全な地球環境維持に努める」ことを挙げている。その一環であるインドネシア植林活動「ヤマハの森」、防災にも有効な遠州灘海岸林(浜松市:本社所在地)の再生活動など、さまざまな地域における植林活動を通じて、社会の持続的発展に貢献できることを願っている。■

◆ヤマハグループのCSR / 環境・社会活動
http://jp.yamaha.com/about_yamaha/csr/